

トランプ大統領のTwitter解析： 自国中心主義の見える化

石戸 光（千葉大学 グローバル関係融合研究センター/法政経学部 教授）

千葉大学グローバル関係融合研究センター

- 千葉大学のグローバル関係融合研究センターでは、文理融合的な新学術領域の研究を志向。
- トランプ氏のツイッター解析を、大統領選の期間中および大統領就任後の2つに分けて実施した。
- 解析作業は田代佑妃・特任研究員による。

分析対象データ

選挙期間中のトランプ氏によるTwitterへの書き込みデータ

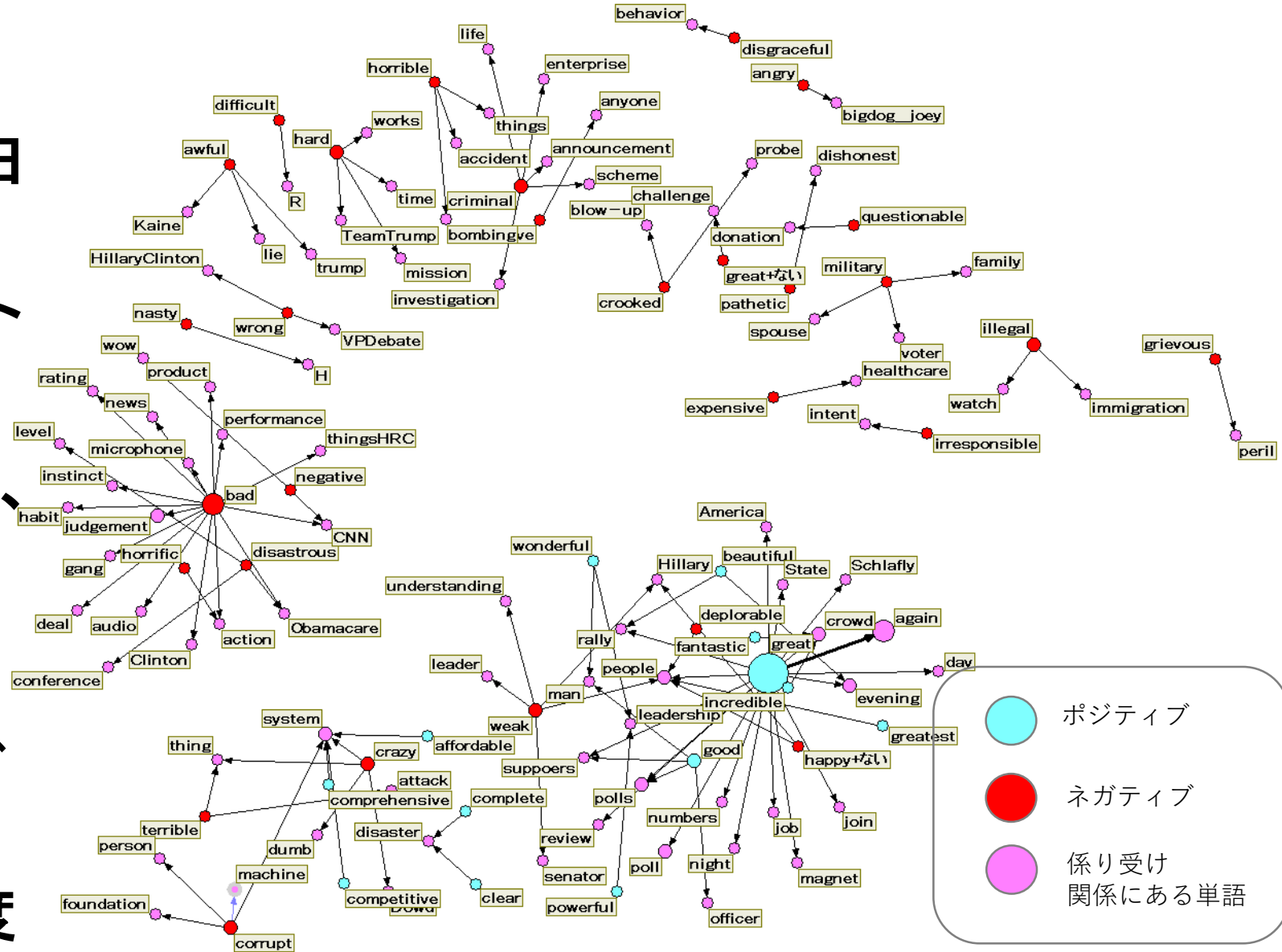
期間：

- **大統領選の期間：2016年9月1日～11月7日（909件）**
- **大統領就任後：2017年1月20日～3月31日（361件）**

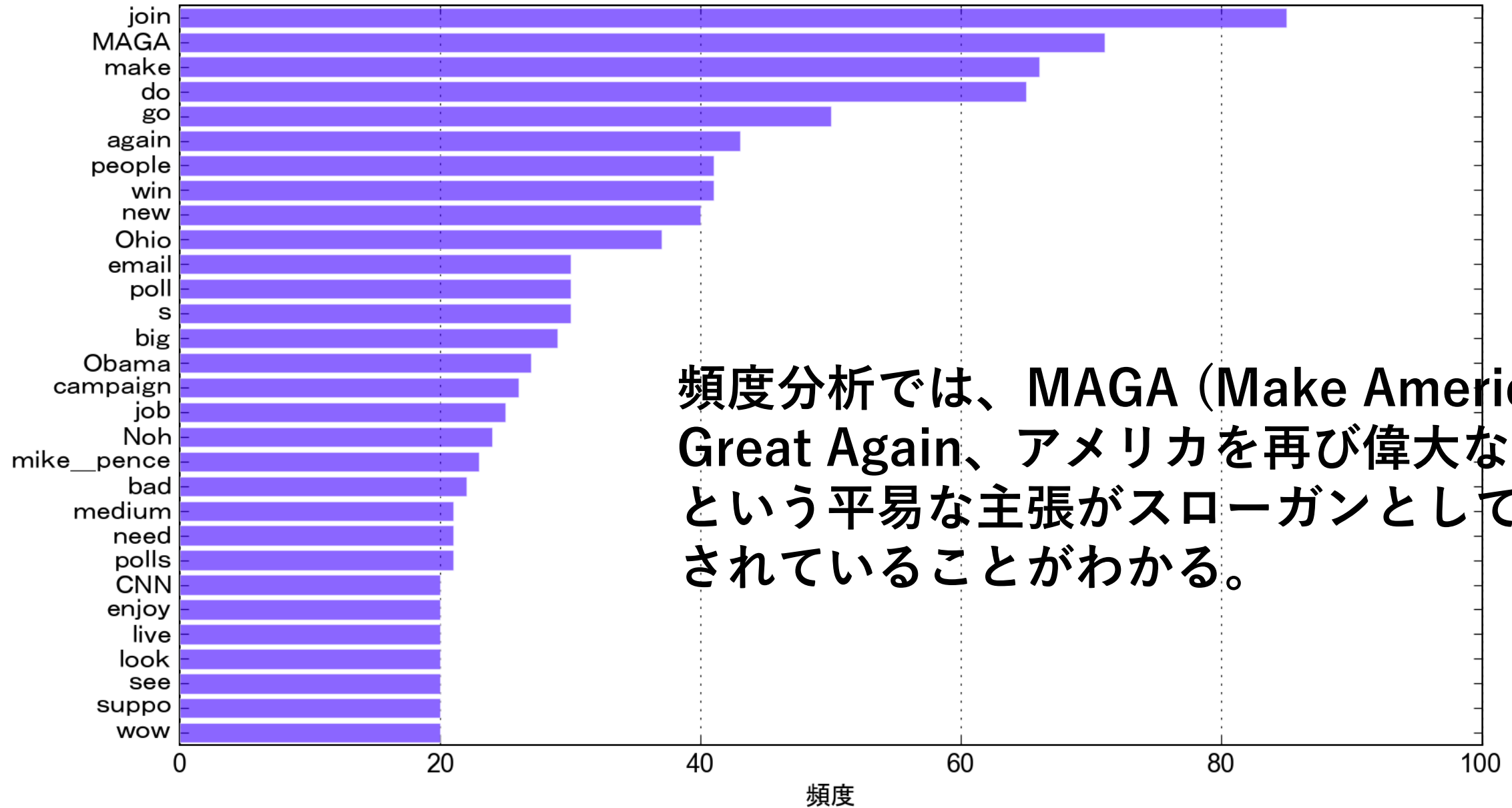
TMS : 評判抽出

2016年9月1日~11月7日のすべて(909件)の内容での係り受けのネットワーク図。

アメリカを“great”にする、という意味で“great”がポジティブな評価、CNNなどマスコミおよび政敵(HillaryClinton)にネガティブな評価。移民(immigration)も低頻度ながらネガティブな評価。



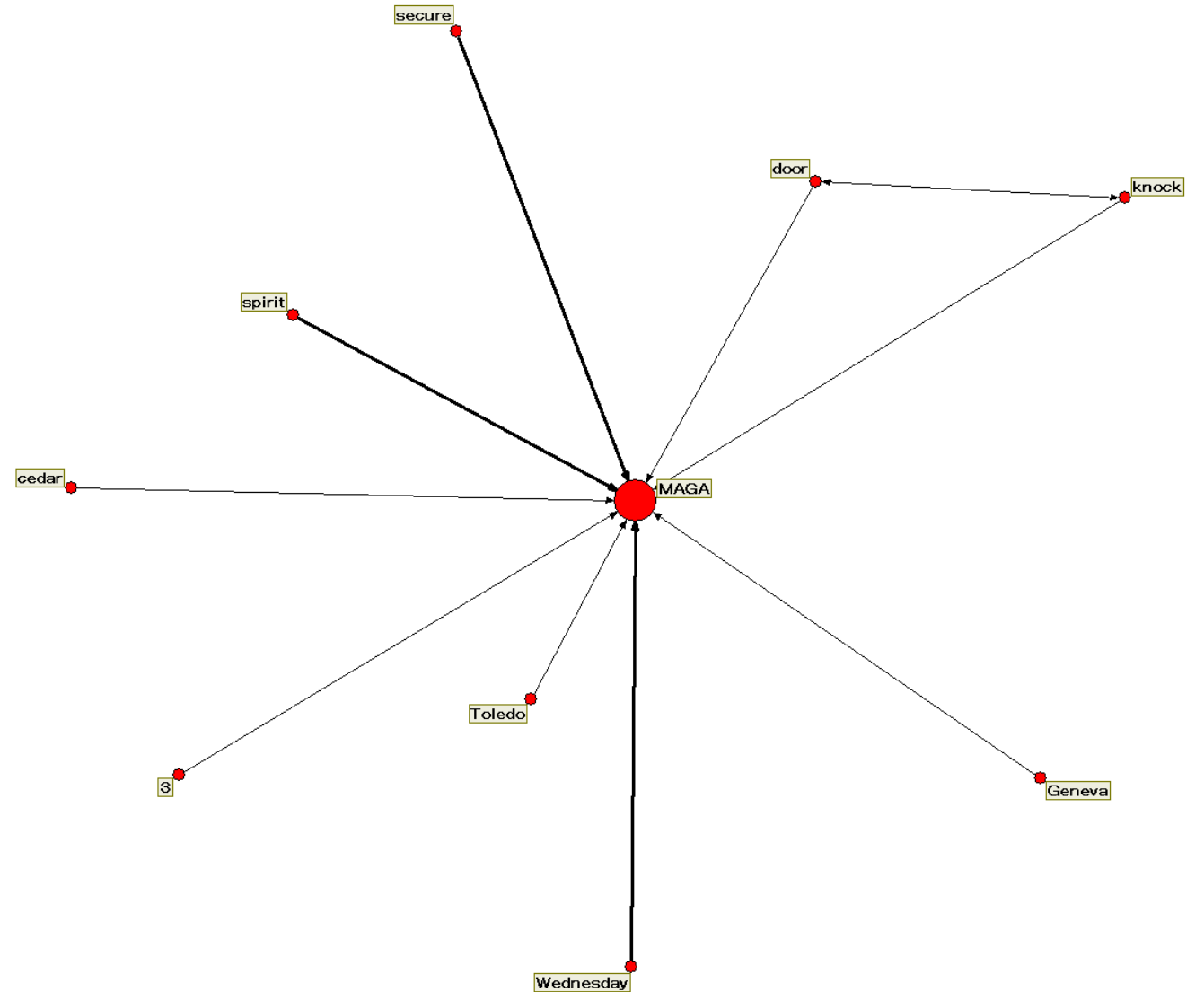
TMS : 単語頻度解析



頻度分析では、MAGA (Make America Great Again、アメリカを再び偉大な国に)、という平易な主張がスローガンとして多用されていることがわかる。

TMS：注目語情報

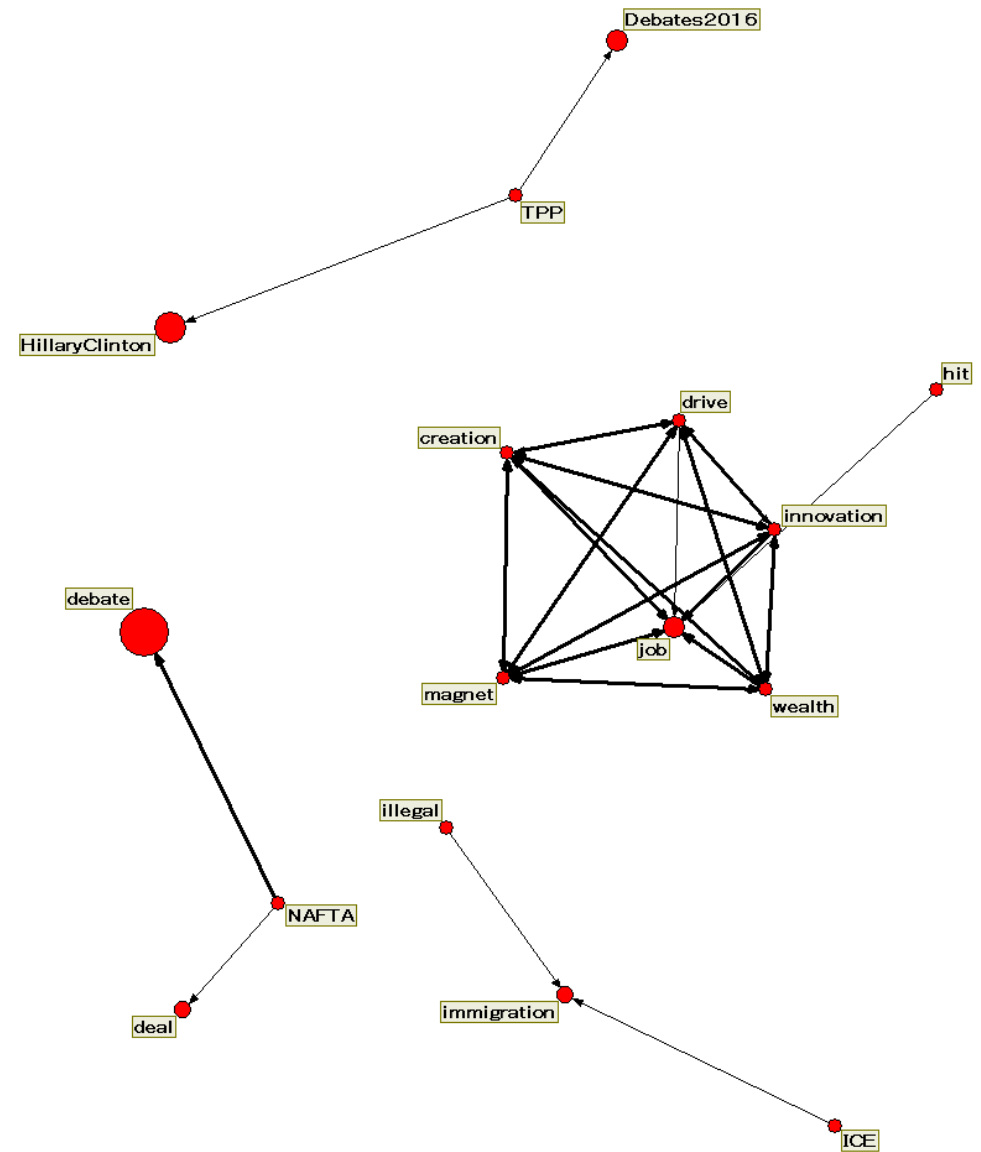
MAGA (Make America Great Again) を注目語と設定して抽出してみると、他の用語の頻度があまり多くないにも関わらず、MAGAに話が行くという意味で、「とにかくアメリカを再び偉大に」という自国中心主義の思いが先行している（すなわち、主張があまり論理的とはいえない）。



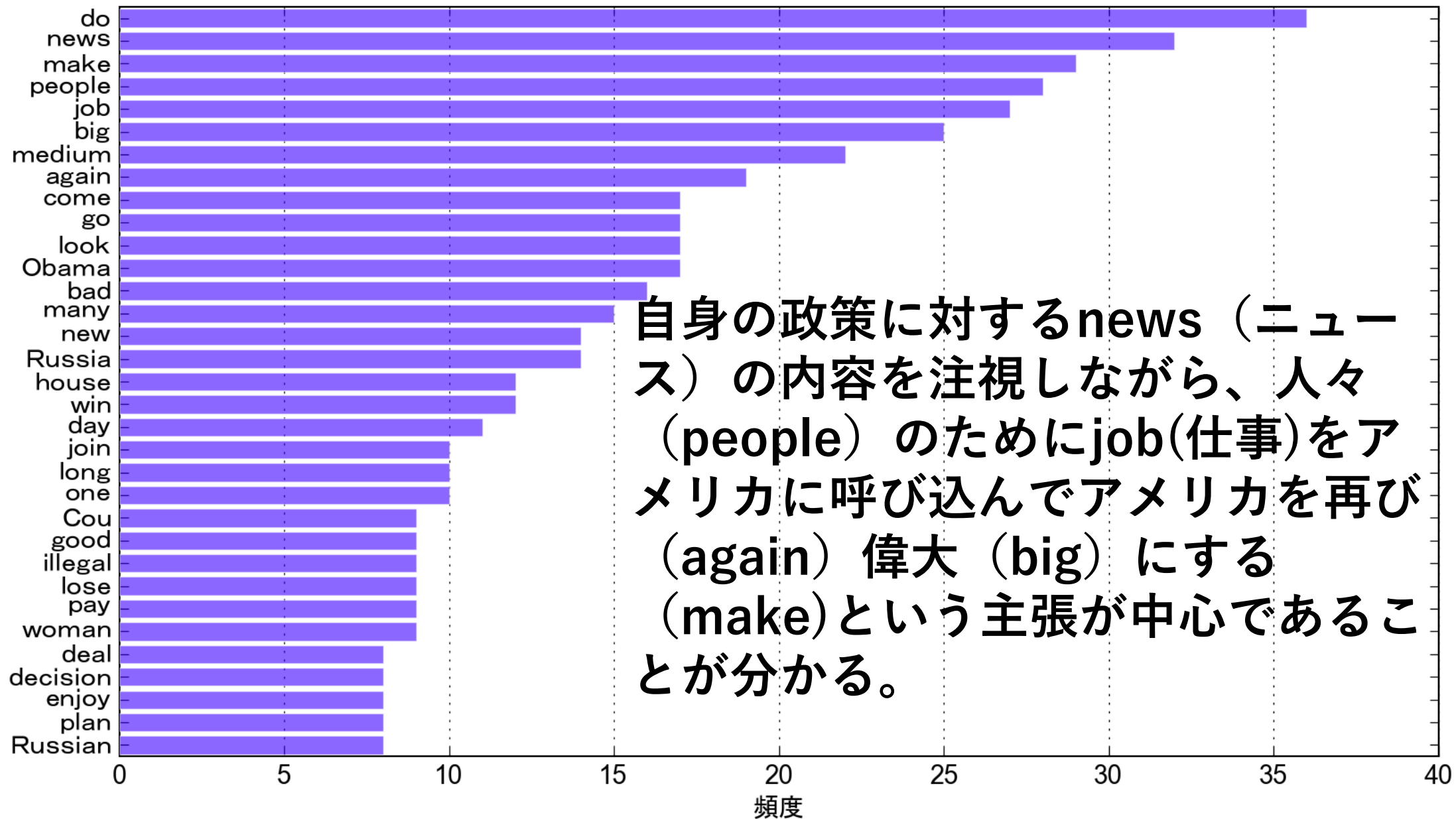
TMS：注目語情報

低頻度ながらTPPはHillaryClintonの責任、という見方や、job（仕事）のcreation（創出）やイノベーション（innovation）の必要性についてがセットとなり、選挙民にアピールしている。

またNAFTA（北米自由貿易協定）やillegal（不法な）immigration（移民）についても語り、保護主義の正当性をアピール。



TMS : 単語頻度解析

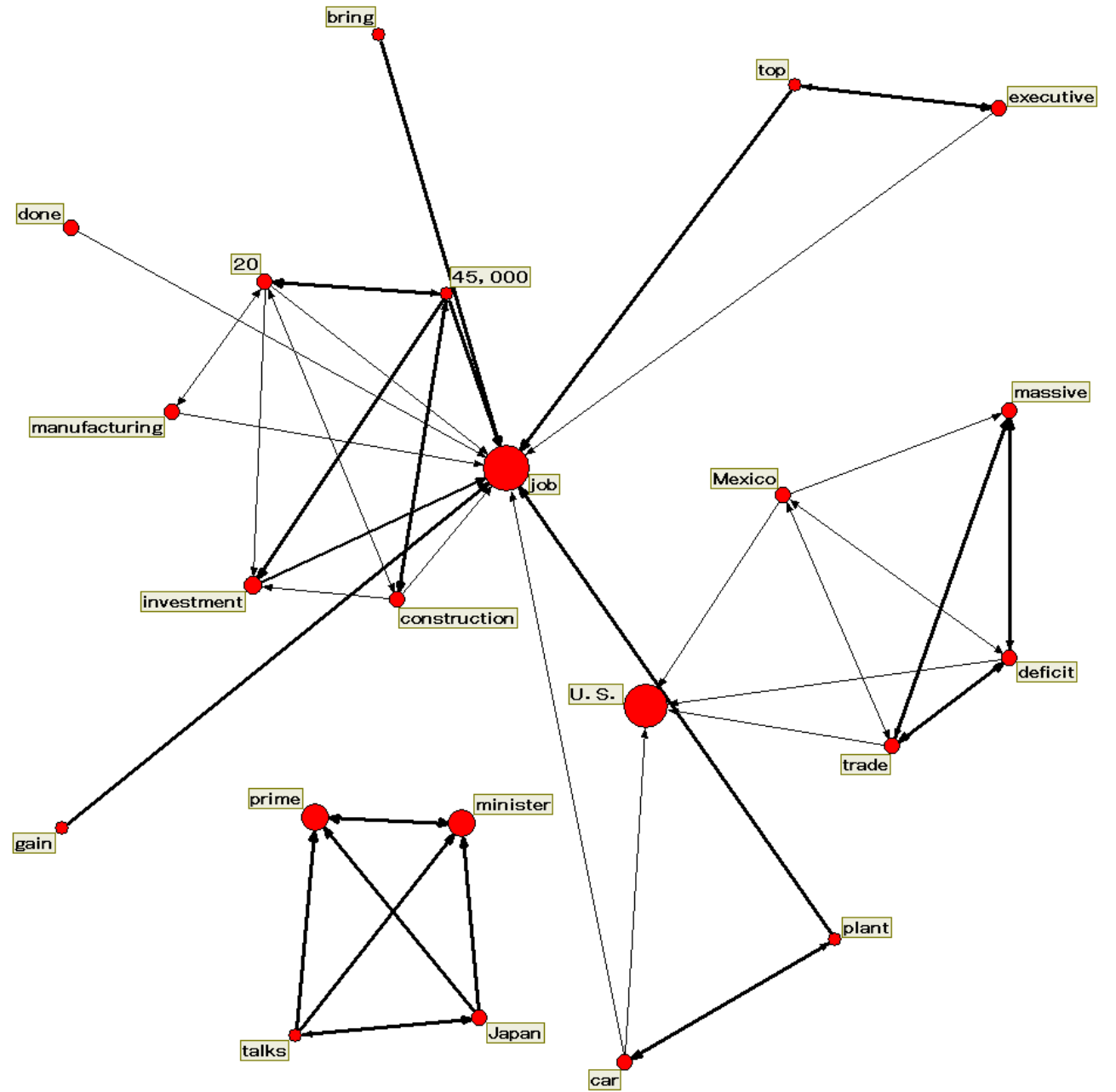


自身の政策に対するnews（ニュース）の内容を注視しながら、人々（people）のためにjob(仕事)をアメリカに呼び込んでアメリカを再び（again）偉大（big）にする（make）という主張が中心であることが分かる。

TMS：注目語情報

Job(仕事) をアメリカ (U.S.) で増やすことに関して、具体的な数字や工場 (plant)、自動車 (car) やメキシコ (Mexico) といった分かりやすい事例とともに書き込んでいる。

日本 (Japan) の首相 (prime minister) と話した (talk) 件にも少し言及。



お問い合わせ先

石戸 光（千葉大学 グローバル関係融合研究センター/法政経学部 教授）

<http://www.le.chiba-u.ac.jp/member/ishido.html>